

2019年3月期 連結業績見通し

代表取締役社長
石黒 成直

石黒でございます。2019年3月期の通期連結業績予想についてご説明します。

2019年3月期 連結業績及び配当金見通し

Attracting Tomorrow 

(億円)		2018年3月期 通期実績	2019年3月期 業績予想 (2018年4月発表)	業績予想対前期比	
				増減	増減率(%)
売上高		12,717	13,400	683	5.4
営業利益		856	1,000	144	16.8
営業利益率		6.7%	7.5%	+0.8 pt	-
税引前利益		898	980	82	9.1
当期純利益		635	700	65	10.2
1株当たり利益(円)		502.80	554.48	-	-
配当金		上期：60円 下期：70円 年間：130円	上期：70円 下期：70円 年間：140円	-	-
為替	対ドルレート	110.93	105.00	-	-
	対ユーロレート	129.64	129.00	-	-
固定資産の取得 (設備投資)		1,786	2,100	314	17.6
減価償却費		922	1,100	178	19.3
研究開発費		1,035	1,100	65	6.3

2018年3月期通期決算説明会

© TDK株式会社・2018
広報グループ・2018/4/27・2

まず業績見通しの前提となる為替レートは、対ドルで105円、対ユーロで129円と見えています。

対ドルで約5%の円高を前提とし、売上高は1兆3,400億円、6期連続売上新記録を目指したいと思います。営業利益は1,000億円とし、実質ベースで初の1,000億円台となる新記録樹立を目指します。

税引前利益は980億円、当期純利益700億円、一株利益554円48銭を計画しています。配当金は、上期・下期とも70円とし、年間140円で10円の増配を予定しています。

設備投資は2,100億円、減価償却費は1,100億円、研究開発費は1,100億円を見込んでおります。設備投資は2018年3月期実績の1,786億円からさらに300億円程度上積みする計画です。

2019年3月期より始まる新中期において、最終年度目標達成のキーとなる主要事業、テクノロジーに対し、戦略的に投資を前倒しし生産体制の構築を行っていきます。受動部品においてはコンデンサを中心としたモデルラインの構築、センサ応用製品においてはMEMSやTMRセンサの増産投資、磁気応用製品では次世代ヘッドおよびマイクロデュアルステージアクチュエータの増産、また磁性製品の拠点構築、エナジー応用製品においては能力増強に加え品質安全投資などを進めてまいります。これら設備投資を通して、市場ニーズに的確に応え、売上拡大につなげ収益向上を目指してまいります。

2019年3月期 通期連結売上高増減イメージ

Attracting Tomorrow 

(億円)

セグメント 区分	2018年3月期 通期実績	2019年3月期 通期予想 (対前年比)
受動部品	4,178	+3～+6%
センサ応用製品	774	+29～+32%
磁気応用製品	2,775	△4～△7%
エナジー応用製品	4,428	+8～+11%
その他	563	—
合計	12,717	13,400

為替レート \$/Yen
為替レート EURO/Yen

110.93
129.64

為替前提

105.00
129.00

2018年3月期通期決算説明会

© TDK株式会社・2018
広報グループ・2018/4/27・3

通期業績見通しの前提としている連結売上のセグメント別増減イメージについて、先ほどご説明した新報告セグメント別に、2018年3月期売上を組み替えたベースを基準としてご説明します。

まず受動部品セグメントは、+3%～+6%の増加を想定しています。自動車市場は、xEV化やADAS、自動運転等の拡大に伴って旺盛な需要がさらに拡大することを見込み、コンデンサ、インダクタが売上成長を牽引していくと想定しています。

センサ応用製品セグメントは、+29%～+32%の増加を計画しています。MEMSセンサを大きな成長ドライバと位置付け、モーションセンサと超音波指紋認証センサの拡大を見込んでいます。またICT市場への磁気センサ販売拡大も見込んでいます。

磁気応用製品セグメントは、▲4%～▲7%の減少と見ています。HDDヘッドの数量が約▲6%減少する一方、ハッチソンが持つ金属微細加工技術やエッチング技術を活用した新規事業の売上が増加すると見込んでいます。また、磁性製品も自動車・産業機器向け販売が堅調に推移すると見ています。

エナジー応用製品セグメントは、+8%～+11%の増収と見ています。ミニセルやハイパワー向け電池の生産能力も含め、さらに15%程度の増産を予定し、スマートフォン市場の需要を確実に取り込むとともに、新規アプリケーションの開拓も積極的に進めていく予定です。

様々な電子部品需要の拡大が進行するなか、基盤事業の受動部品が想定される市場の成長以上に増加すること、センサ応用製品は買収効果を実現するステージとなり売上拡大に貢献してくること、エナジー応用製品においても堅調に成長を続けることで、全社で着実に成長していくイメージと捉えていただきたいと思います。

私からの説明は以上です。どうもありがとうございました。

将来に関する記述についての注意事項

Attracting Tomorrow



この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載いたします。
http://www.tdk.co.jp/ir/ir_events/conference/2018/4q_1.htm